

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月19日

協議会名: 裾野市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持改善事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を 受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり実 施されなかった場合には、理由 等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量的 な目標・効果が達成されたかを、 目標ごとに記載。目標・効果が達 成できなかった場合には、理由 等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記 載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果 を生活交通確保維持改善計画にどのように反映 させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載 すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
富士急シティバス株式 会社	系統名:東西線	①バス・タクシー利用助成制 度をより充実させるため、1 回あたりの上限廃止。 ②計画期間終了後における 市内循環線のあり方につ いて検討するため、自動乗降 調査のシステム化に向けた 検討。	A ①70歳以上の市民を対象とした 2,000円分のバス・タクシー利用 助成券の交付。 ②市広報媒体、市内各施設など に、時刻表配架等継続。市内路 線バスの路線図をホームページ へ掲載。	B 目標①年間利用者数10,000人 (R6.10～R7.9の期間で2系統を 合わせた人数)を設定。 達成状況:9月末時点の利用者 数13,311人のため達成。 目標②評価指標(アウトカム指 標)「バス路線や便数」の満足度 44.2%(普通以上)。目標値50% 以上。 達成状況:令和6年度市民意識 調査結果 35.2%のため未達 成。 理由:バスをよく利用する70代 の方の満足度が低かったため。	改善点①運行ルート、ダイヤについて 周知の強化を図る。 改善点②計画期間終了後における市 内循環線のあり方について検討するた め、乗客の移動傾向把握に向けた自動 乗降調査のシステム化を図る。
富士急シティバス株式 会社	系統名:南北線	①バス・タクシー利用助成制 度をより充実させるため、1 回あたりの上限廃止。 ②計画期間終了後における 市内循環線のあり方につ いて検討するため、自動乗降 調査のシステム化に向けた 検討。	A ①70歳以上の市民を対象とした 2,000円分のバス・タクシー利用 助成券の交付。 ②市広報媒体、市内各施設など に、時刻表配架等継続。市内路 線バスの路線図をホームページ へ掲載。	B 目標①年間利用者数10,000人 (R6.10～R7.9の期間で2系統を 合わせた人数)を設定。 達成状況:9月末時点の利用者 数13,311人のため達成。 目標②評価指標(アウトカム指 標)「バス路線や便数」の満足度 44.2%(普通以上)。目標値50% 以上。 達成状況:令和6年度市民意識 調査結果 35.2%のため未達 成。 理由:バスをよく利用する70代 の方の満足度が低かったため。	改善点①運行ルート、ダイヤについて 周知の強化を図る。 改善点②計画期間終了後における市 内循環線のあり方について検討するた め、乗客の移動傾向把握に向けた自動 乗降調査のシステム化を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月19日

協議会名:	裾野市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持改善事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>裾野市地域公共交通計画の基本理念 ・地域が一体となって守り育てる公共交通ネットワークの構築により、誰もが安心して移動できる持続可能な地域公共交通を実現する。</p> <p>計画の方針 ①公共交通のネットワークの再構築及び利便性の向上 ②公共交通の認知度の向上及び利用促進による利用者の増加 ③地域と一体となった移動手段の充実</p> <p>上記、3つの方針に基づき8つの目標を設定した。そのうちの1つが「バス・タクシーのネットワークの再構築・利便性の向上」である。 これは、市民や来訪者の移動実態やニーズを捉え、最適なバス路線やルート、バス停位置、時刻表のあり方を検討することにより、既存のバス・タクシーネットワークの再構築を図るとともに、公共交通利用者の利便性の向上を目指すものである。 この目標を達成するための事業として、「地域内フィーダー系統確保維持改善事業」がある。 市民の生活交通の確保、継続を図ることを目的に地域内フィーダー系統確保維持改善事業(市内循環線)を実施する。</p>